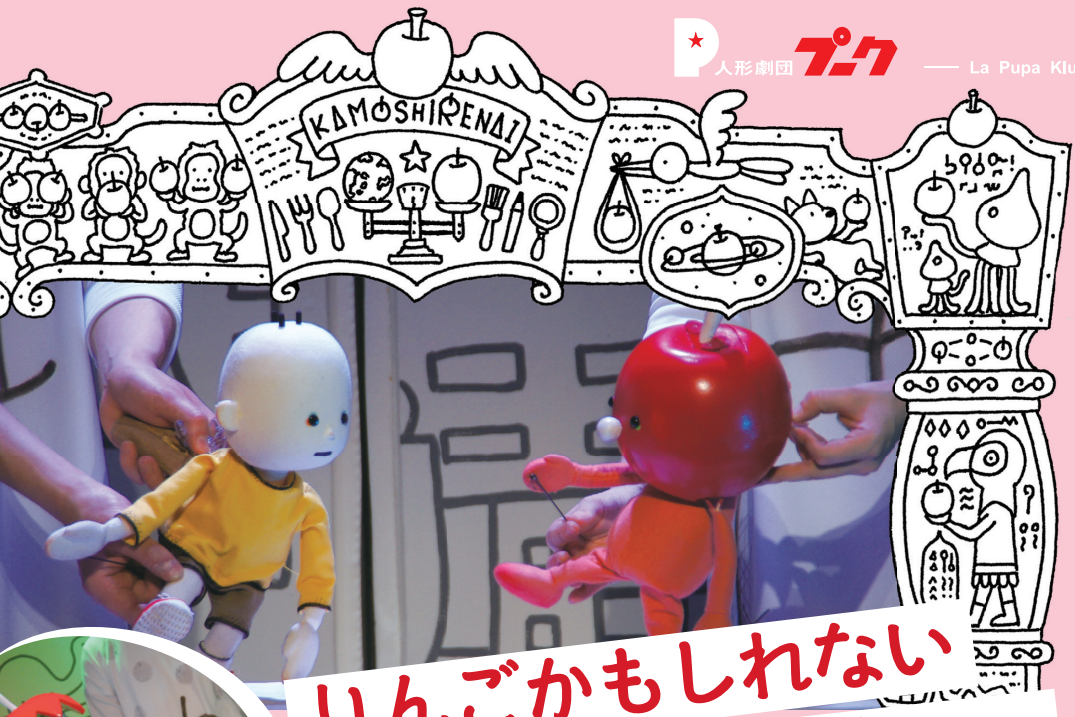
人形劇団プーク — La Pupa Klubo —



目の前にあるこのりんご、もしかしたらりんごじゃないのかもしれない・・・。ひとつのりんごから始まる、少年の想像の世界。ヨシタケシンスケさんの大人気絵本が初の人形劇化！！

りんごかもしれない

原作・美術デザイン／ヨシタケシンスケ（ブロンズ新社刊）

脚色／西本勝毅　演出／柴崎喜彦　美術造形／坂上浩士　音楽／庄子智一
照明／芦辺 靖　音響効果／川名 武　振付／上田 亮（音楽座ミュージカル）

理解するということ・・・空想のススメ　演出 柴崎喜彦

“りんご”というものは、少し不思議な雰囲気を感じたりする。旧約聖書のアダムとイブが口にした善悪を知る果実であったり、万有引力を発見したニュートンのきっかけにもなったものだったり。そのくせ小さな子でも簡単に描けるほど色や形はみんな良く知っている。そんなりんごがこのお話では止めどなく思いのままに変化するのです。

「本物そっくりの字でなにを描いたら面白いか」ヨシタケさんが出演したテレビで語られていました。日々様々な面白さを探しているヨシタケさんの作品の魅力は、「あ！そうそう」と遊び心をくすぐってくれるところにあるのかなあと思います。空想することは、楽しいという感情だけでなく、脳の発達に欠かせません。日常に転がっている当たり前のことを、当たり前として固い頭で決めつけずに、子どもたちと一緒に、果てしなく自由な空想世界を楽しんでいただけたらと思います。

かもしれない…って、断定はできないがその可能性があることの意です。このお話の“りんご”は本当にりんごなのか、りんごとは何なのか。知っているようで本当はよく知らなかったり。相手を理解するということは、相手を認めるという意味でもあるのです。

空想から創り出された虚構だけではない、本当の意味を、感じていただけたらと思います。

併演作品あり

人形劇団プーク
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-12-3 ☎03-3370-3371（制作部）
URL https://www.puk.jp/　e-mail puppet@puk.jp　twitter @pukichichibi